



「栄光、神に在れ」

2025 年 9 月

河内長野教会牧師 森田 恭一郎

この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように。

(ローマの信徒への手紙 16 章 27 節)

河内長野教会創立 120 周年

河内長野教会は今年、創立 120 周年を迎えました。1905 年 7 月 18 日、アメリカ カンバーランド長老教会宣教師、A. D. ヘール宣教師が日本基督長野講義所(現河内長野教会)設立認可申請書を大阪府知事宛てに提出した日を創立記念日としています。

地域の信頼に応えて

この度 120 周年を迎える準備の過程で歴史を振り返りつつ気付いたことがありました。それは地域の皆様からの応援があって教会が成り立ってきた、という気付きです。例えば前史になりますが、当教会の最初の記録は 1901 年「石田たりよ氏、長野神社社務所にて日曜学校を開設する」です。キリスト教会の日曜学校が長野神社の社務所で開設されたのでした。当然のことながら神社の協力があって出来たことです。それから A. D. ヘール宣教師夫妻を迎えてクリスマス会を開いたのは、1902 年、喜多町の大日堂において、女子のクリスマス会は西條家隠居所において、以後継続します。こちらはお寺と西條家の協力があつた訳です、子どもたちの集会ですが、当然、保護者の方たちの理解があって子どもたちは集まることが出来たはずでず。

思えば清教学園も、事の始まりは、清教塾に集まった日曜学校の子どもたちが、キリスト学校設立の志を得て、神社の戎祭りで賑わう人々に向かって「人をつくるのは教育です。間違った教育の恐ろしさは、この戦争でいやというほど味わいました。愛と平和の宗教、キリスト教を基本においた中学校を、この長野町につくってほしい」(大谷美和子『青春輪舞』より)と呼びかけ、募金活動を始めたことがその第一歩でした。これも人々が募金に協力してくれました。清教学園も河内長野教会もその後の歴史は、地域の皆さんの協力があってこそ、成り立ってきました。

清教ミニストリー

そこで河内長野教会はこの度、今さらではありますが「地域の信頼に応えて」を、これからの営みの大切な視点として受けとめました。新たなスタートです。

そしてその一環として、私たちは「清教ミニストリー」を今年の 4 月に発足させました。私たちというのは、学校法人清教学園（清教学園中学校、高等学校）、社会福祉法人泉カナン会（聖愛保育園、清教学園幼稚園）、宗教法人河内長野教会の代表者としての私たちですが、「清教ミニストリー」は三者がお互いの働きために協力し合い、かつ、三者が協力して地域の教育・福祉・平和の町づくりのために神様に仕えていこう、という志を共有しました。これまでは三者が自立していく営みでしたが、併せてこれからは地域を覚えて共に連携していく営みを目指そうというものです。

栄光、神に在れ

表題の「栄光、神に在れ」は河内長野教会の理念聖句（ルカ福音書 2 章 14 節）ですが、清教学園も泉カナン会も志は同じです。もちろん清教学園の建学の理念は「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」（因みに泉カナン会の理念聖句は「主がお入り用なのです」）です。戦前の教育の反省を踏まえ、人格と生命を尊重し平和の日本づくりを目指す教育の使命を掲げています。この事を通して「栄光が神に帰せられる」ことが地域の皆様にも現れるようにと建学の理念は信仰の志を内に含んでいます。パウロはローマの信徒への手紙を「この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように」の言葉を以て締めくくりました。この知恵とは愛ある知恵であり、キリストを通して現される知恵、教会の宣教の歴史（ここに泉カナン会の働きと清教学園の働きも含まれます）を通して現される知恵です。三者共に新たなスタートです。

因みにこの夏、聖書科の課題として、清教学園の中学生の皆さんが河内長野教会の日曜日の礼拝に多数参加しました。保護者の方たちも数名ですがご一緒でした。いずれまた来たい、と喜んで戴けたでしょうか。若い方たちの教会の礼拝経験は、その後の人生に寄与していくと信じます。キリスト教教育は学園単体では完結しません。教会も責任を負っています。私たちが、生徒たちとご家族の皆さんを覚え「神の栄光のために」お仕え出来たことを有り難く思います。

もう一つ、因みに「栄光、神に在れ」は、「栄光、自分に在れ」、栄光を勝ち取れ、頑張れ、ではありません。詩編に神様の呼びかけのお言葉があります。「それから、私を呼ぶが良い。苦難の日、私はお前を救おう。そのことによって、お前は私の栄光を輝かすであろう」（詩編 50 編 15 節）。私たちが栄光を輝かすのは、必ずしも私たちが何か立派だからではなさそうです。苦難の日に、言ってみればボロボロの姿で「助けて」と神様を呼び、主のお支えと励ましの中に導き入れられると、それが救い主である神様の栄光を輝かすことになります。

さあ、二学期ですね。皆様に神様のこの祝福を祈ります。